

炉辺医話(10)0102へ変更

2001.8.6 提出

旅のトラブルフルコース

旅行の目的

不景気の世の中といいながら、今年の夏は史上最高の海外旅行者数だったそうです。旅にトラブルは付きものといえ、それまでですが、2001年7月末の旅行でアッタマにくるトラブルのフルコースを経験しました。ところは、中国です。中国旅行には、トラブルが多いとはいわれていましたが、メインランドチャイナと呼んでいた1970年代末からおそらく10回以上も中国を訪れて、記憶に残るようなトラブルの経験もなかったもので、まあまあ気楽に行きました。それには、これまでの中国旅行では、現地の医療関係者と一緒だったり、ホテルが国際級と呼ばれるようなところだったのも関係していたのかもしれませんが。こんどの旅行の目的は、北京で開かれた医用材料の国際学会での講演と天津の大学で日本

の吸着を原理とする血液浄化について講演をすることでした。その帰りにちょっと寄り道をして、蘇州で水路の街の絵を描いてくることも、大きな楽しみでした。

トラブルのはじまり

北京の空港は、この数年間に新築され、すっかりオリンピック用の装いとなっていました。市内までの高速道路も完成していました。市内までは、空港からタクシーで移動しました。乗るときに、ホテルの名と場所の書かれた学会のプログラムを示し、運転手も理解したようなので、まあ一安心とっていました。ところが、市内に入ってからホテルを探せないのです。国際学会ですから、プログラムは英語の表記です。運転手は、中国語しか理解しません。こちらは、中国語駄目です。結局、あっちで聞き、こっちで尋ね、市内を一時間もうろうろしてやってホテルにたどり着いたのでした。

ところで、ホテルの学会事務局は、「あなたは、登録してあるけど今日の部屋はない」というのです。そんなのってあり？実は、ちょっと気がかりだったので、出発 4-5 日前に会長さんあてに E-mail でホテルの確認書を要求したのですが返事がなく、まあいいかとでてきたのです。北京市内をタクシーがうろろするあいだに、近所にヒルトンホテルがあることが分かっていましたので、ヒルトンホテルに急遽予約をいれ、オーケーということに移ることにしました。ところが今度は、会長さんが、わたしの肩を抱きかかえんばかりに、自分の部屋を空けるから、移らないでくれというのです。メンツの問題ということのようでしたので、やむを得ず、受け入れました。部屋のクリーンアップに、小一時間かかってやっと寝るところ確保です。

ところで、旅行中も自分の病院の秘書といろいろと連絡をとる必要があります。このたびは、はじめて、外国から直接日本と話せる

携帯電話をしましたが、これは大成功でした。FAXをやりとりすることも必要なことがあります。ですけど、FAXを送ったという電話があるのに、こないのです。あちこち聞いたら、ホテルのビジネスセンターにきてることが分かりました。FAXがとどいていても、連絡をくれないのです。ビジネスセンターにとりにいきました。お金がかかるというので、部屋へ請求してもらおうようにしました。さて、翌日、同じくFAXがきました。ところが、こんどは、部屋への請求は駄目だということです。フロントが、駄目というということです。フロントへ行き、掛け合いました。オーケー、no problem という返事です。ビジネスセンターでは、駄目。どうなってんの、これ。

朝の食事です。一回目。1階の普通のレストランで、学会からだされたチケットもお金も請求されずに問題なく終了。二回目。チケットを請求されたので見せると、3階に特別の部屋が用意してあるといいます。3階へ行

ったらだれもいません。1 階のレストランへもどって文句をいうと、ボーイが一緒について 3 階へ。やっぱり、駄目。ああそうか、2 階だったということで、2 階へ。2 階に、特別のレストランがありました。だけど、修学旅行（？）の中学生でごったがえしています。こんなところで、食べられないよ。憤然として、1 階のレストランで、前払いして食べました。ところで、食べてるうちにお金が戻されてきたのです。これ、なに？

やっと、北京での学会が終わりました。天津の大学へ移動です。朝、8 時に車が迎えにきてくれることになっていて、ホテルのロビーで待っていました。そのうち、車の都合で、10 時に迎えにくることに変更の連絡が入りました。やれやれ。

夜、大学の先生たちと天津のレストラン街へ食事に行きました。わたしは、突然、中国語が喋れたのです。100 軒以上も、店の並んでいるところで、5-6 人の店員が自分の店に

わたしたちを引き込むのに、大声で話しかけながらゾロゾロついてくるのです。対応するのが面倒なので、向こうが喋り掛けるのを真似してわたしも言葉を返しました。キョトンとして、こりゃ駄目だと思ったのでしょうか。ついてこなくなりました。意思が通じたのです。

もっとありました。天津から蘇州へ行くには、天津-上海は飛行機、上海-蘇州はチャーターした車で移動しました。上海空港で、無事、現地のガイドと合流。シメシメ。ところが、ガイドが携帯電話で車を呼ぶと、あろうことか、ポリスが運転してきたのです。最初は、無免許運転で捕まったとの説明でしたが、そのうち、駐車違反で、ポリスへの対応が悪くて、車と運転手がまとめてパクられたことが分かりました。蘇州へどうやっていくのよ。結局、ガイドが普通のタクシーを雇って蘇州へ行くことになりました。ああ、疲れる。

でも、蘇州は、絵を描くのいいところで

した。実は、2年前にも蘇州へ行ったのですが、そのときの現地のガイドは、最近できた大仏のテーマパークのようなところへ連れて行って肝心の水路の街へ行けなかったのです。蘇州は世界遺産に登録されていますが、街の中心はきれいになり過ぎてつまらないのです。自分で勝手に歩き廻って、世界遺産からはずれた部分（？）のほうが、いいところがあるように思いました。

歩き廻って疲れて、夕方、ホテルで横になっていると、部屋のチャイムがなりました。うるさいな。文句を言いながら、でていくと、ハッピーバースディのケーキの差し入れでした。そうでした。67回目の誕生日でした。

「Happy birthday to me」と自分で歌いながら、ちょっとだけ食べました。だって、中華料理大好きなのは、ずっと食べ過ぎでいつもおなか一杯だったのです。残りの大部分は、その次に洗濯物を持ってきたメイドに上げました。

こうして、わたしの旅行は、ハッピーバースデイのケーキを貰ってハッピーエンドだったのです。日本では、終わりよければすべてよしといいます。だけど、疲れたよ、これ。他人（ひと）ごとながら、いろんな国から人が集まる 2008 年のオリンピック大丈夫？